

ベビー・スイミングについて

—第 1 報—

研究第2部 曾根 秀子・青柳 幸子
宮崎 (叶)・高橋 悦二郎

I はじめに

近年、出生直後の新生児が「無力・無能である」という、いわばかつての常識を改めさせるような研究が進み、新生児にも種々な能力が備わっていることが明らかにされ、母子保健・小児保健の中で、その能力を小児の養護にいかにとりいれていくかが問題となってきた。0歳児が泳ぐ(実際は潜水が主である)能力を備えているという事実も、母子保健、小児保健的な適切な対応を迫っているものと考えられる。

小児に備わっている良い能力は、それを発揮する機会を与えて、伸ばすというのは、小児の養護の一つの原則のようなものであり、0歳児に、水に対応するある種の能力があるというのであれば、水を養護法に取り入れることも、一考しなければならない。しかし、0歳児で、水に対する能力を引き出すと、どのような効果が現われるのか、効果が現われるにしても、0歳で行うのがよいのか、もう少し後の発達段階を待ってよいのか、水に対する適応には、いわば臨界期のようなものがあるのか、などに答えられるだけの科学的資料は乏しいと言わなければならない。また、われわれは通常、水に関係の少ない環境で育児を行っているのであるが、幼若乳幼児にどのように、どの程度、水環境を与えるかが問題になる。幼若乳幼児プールを与えることが必要なのであろうか。

このような事情にもかかわらず、最近のスポーツ・ブームはスイミング・クラブの乱立を招き、過当競争の声さえ聞かえる中で、ベビー・スイミング(以下B.S.と略)が新たなブームとして、充分な科学研究を待たずに普及していくことが懸念される。最近、保健指導の場面で、母親から次のような相談を耳にすることがあった。「B.S.に通っているのですが、子どもがどてもいやがります。どうしたらよいでしょう」「消極的な性格なので、B.S.をやらせてみたいのですが…」

こういった相談に答え、われわれ自身の疑問に答えるため、B.S.という新しい分野に関して小児保健の立場

から早急に調査・研究を進めなければならない。

わが国にB.S.が紹介されてから、およそ10年になろうとしているが、現在までにどの程度普及したのであろうか。本年度は、まず実態をとらえることを目的として、調査を行った。今後、わが国におけるB.S.のあり方を考察していく際の参考としたい。

II 調査対象及び調査方法

対象は日本スイミングクラブ協会関東支部に登録の、190ヶ所のスイミングクラブ及びスクール(以下S.C.と略)。各々の管理責任者宛、郵送によるアンケート調査を行った。

調査期間は昭和55年2月～3月である。

III 調査内容

調査項目は28で以下の通りの内容である。Q1. 創設年次、Q2. 専用プールの有無、プールの数、借用の場合はその借用方法、Q3. 在籍会員総数、Q4. コーチ数(専任・非常勤)Q5. B.S.をやっているか否か、やっていない場合はその理由、開設の具体的計画があるか、ここでベビーとは一応3歳未満とした。(これ以降はB.S.実施S.C.に対して)Q6. B.S.開設年次、Q7. B.S.専用プールの有無、Q8. 受入最低月齢、Q9. 在籍ベビー数、Q10. B.S.コーチ数、Q11. 一般水泳指導の資格者、Q12. Q11の認定機関、Q13. B.S.に関する資格・講習、Q14. 指導形態、Q15. 練習量、Q16. コーチ1人当りの受持ちベビー数、Q17. 健康管理担当者、Q18～Q21入会時および入会後の健康診査について、Q22～Q28. ベビーの入るプールの水質基準について。

※ 調査票を末尾に添付した。

IV 調査結果及び考察

① 回収率

発送数190に対し、回答は82であった。(回収率43.2%)
うちB.S.実施S.C.は18(22.0%)、計画中で近く開

設予定ありが6 (7.3%), B.S.は実施していないが58 (70.7%)であった。以上3群をそれぞれ、YES群、計画中群、NO群とし、回収状況およびB.S.実施状況を8都県別に示したものが第1表である。

東京・神奈川はS.C.の数が多く、B.S.普及は他を圧倒している。

第1表 回収状況

	発送数	回答数	(%) 回収率	YES	計画中	NO
東京	98	33	33.7	7	3	23
埼玉	21	10	47.6	1	1	8
神奈川	35	21	60.0	7	1	13
千葉	24	12	50.0	2	1	9
茨城	2	1	50.0	1	0	0
栃木	2	0	0.0	0	0	0
群馬	4	3	75.0	0	0	3
山梨	4	2	50.0	0	0	2
計	190	82	43.2	18	6	58

②全S.C.について(Q1~Q5)
はじめに、B.S.を実施しているか否かにかかわらず、すべてのS.C.に回答を求めた項目について、「YES」「計画中」「NO」の3群の比較をしながら報告する。

第2表は創設年次を示した。わが国で水泳がブームとなり、S.C.があちこちに建設されるようになった。

第2表 創設年次

	YES	計画中	NO	計	累積
~39年	—	—	2	2	2
40	—	—	1	1	3
41	1	—	—	1	4
42	—	—	—	—	4
43	—	—	2	2	6
44	1	—	1	2	8
45	1	—	5	6	14
46	—	—	—	—	14
47	2	—	1	3	17
48	1	—	10	11	28
49	3	1	1	5	33
50	2	1	3	6	39
51	1	—	2	3	42
52	1	2	6	9	51
53	3	—	7	10	61
54	2	2	10	14	75
55	—	—	1	1	76
N.A.	—	—	6	6	82
計	16	6	58	82	

かけは、昭和39年の東京オリンピックであると言われるように、39年以前からあるS.C.は極わずかである。東京オリンピックにおける日本水泳界の不振から、水泳界の底辺拡大が叫ばれ、S.C.が建ち始めた。しかし、最近の爆発的ブームは、第2表からわかるように7~8年前から始まったようである。これは単に水泳選手のホープ育成のみならず、誰れもが楽しみながら、体力をつけようというスポーツブームあるいは、学力偏重教育に対する体力づくり重視が背景に考えられ、今や乱立、過当競争の声が聞こえる程、増え続けたのである。

第3表 専用プールの有無

	YES	計画中	NO	計
あり	18	6	42	66
なし	1面	4	29	40
	2面	2	11	23
	3面	1	2	3
なし	—	—	※ 10	10
N.A.	—	6	6	6
計	18	6	58	82

※：借用状況

	NO
曜日決めて (イ)	1
時間帯決めて (ロ)	2
(イ), (ロ)	3
その他	3
N.A.	1
計	10

第3表は各S.C.の使用プールについて示した。S.C.の中には専用プールを所有せず、公施設などのプールを借用して成立している所があるため設問した。結果は予想された通りYES群、計画中群はすべて専用プールをもち、2面以上もつ所もかなりあった。2面以上あれば、1面をB.S.専用にも考えられ、好都合である。一方、専用プールをもたないS.C.は現在のところ、B.S.を実施している所は、1ヶ所もないが、その実施は可能であろうか。米国では海でB.S.をやっている所もあるようだが、わが国において一年を通してレッスンするためには、やはり屋内プールを借用しなければならない。その場合、次の条件が満たされなければならない。第1に通常より水温を上げてもらえること、第2に水のきれいな朝の時間帯を確保できること、等である。しかし、これらの専用プールをもたない地域の同好会的S.C.では、プールの条件のみならず、人手(指導員)の十分な確保が難しく、B.S.に着手するまでには、まだ時間がかかりそうである。

第4表~第6表は、各S.C.規模をみる参考に、在籍

第4表 在籍会員数

	YES	計画中	NO	計
1,000人未満	—	1	11	12
1,000～	4	2	14	20
2,000～	9	2	16	27
3,000～	2	1	9	12
4,000～	1	—	1	2
5,000～	1	—	—	1
N.A.	1	—	7	8
計	18	6	58	82

第5表 専任コーチ数

	YES	計画中	NO	計
4人以下	—	—	9	9
5～	3	3	20	26
10～	9	2	16	27
15～	3	1	4	8
20～	1	—	2	3
25～	1	—	1	2
N.A.	1	—	6	7
計	18	6	58	82

第6表 非常勤コーチ数

	YES	計画中	NO	計
4人以下	1	—	10	11
5～	—	1	11	12
10～	7	1	10	18
15～	1	1	10	12
20～	2	1	7	10
25～	4	1	1	6
30～	2	1	3	6
N.A.	1	—	6	7
計	18	6	58	82

第7表 B.S.やっていない理由

N=58

	N	%
希望者が少ない或いはいない	8	13.8
専門の指導員がいない	21	36.2
設備・用具がない	15	25.9
健康管理上の問題	10	17.2
管理上の問題	14	24.1
B.S.理論に賛同できない	5	8.6
その他	7	12.1
N.A.	2	3.4
計	82 ※	—

会員数と、コーチ数を示した。

在籍会員数では、YES群はすべて1,000人以上の会員をかかえ、中には会員数7,000人というマンモスS.C.もあった。

コーチ数に関しては、各S.C.に経営方針、管理方針があるためか、専任と非常勤の割合はまちまちであった。また、専任コーチが多い程、指導が行き届くというわけではないので、第5表・第6表は参考までにとどめておきたい。但し、YES群、計画中群に専任コーチ4人以下の所はなかった。

すなわち、第3表と併せて、B.S.は専用プールを1面以上もち、会員1,000人以上をかかえ、専任コーチ4人以上がいる比較的大規模なS.C.で主に行われているといえる。

次に、NO群の「B.S.をやっていない或いは、できない理由」について、第7表に示した。%はNO群58に対する割合である。このうち「管理上の問題」は具体的に記述してもらった。内容をまとめると以下の通りである。

- (1) プールの問題(狭い、時間帯がとれない、水質などベビー用に整備できない)……………11
- (2) 人手が足りない……………4

※ 重複回答を含めました

- (3) 経済的に採算が合わない……………2
- (4) 経営上不要……………1
- (5) 事故に対する対策がない……………1

(重複あり、N=14)

すなわち、管理上の問題(1)(2)は、実施しない理由の1, 2位を占める「専門の指導員がいない」「設備用具がない」に通じる内容であり、この「指導員」と「施設(プール)」の2つの問題ができない理由の主なものといえよう。従ってB.S.実施には、S.C.に人的施設的にある程度の余裕が必要であるといえる。

ところで、NO群の中では、B.S.に対する意見は一概ではなく、全然やるつもりのない所から、将来実施したいとしている所まで、様々である。このうち、明らかに消極的意見のものをひろってみた。「健康管理上の問題」10、「B.S.理論に賛同できない」5、「管理上の問題(3)(4)(6)」4、「その他」のうち2、であるが、合計21となる。これは回答82(重複含む)のうち25.6%に当たる。これ以外の意見は条件が備えば、積極性の程度の差はあれ、B.S.に着手する可能性があるものと解せる。

② B.S.普及状況(Q6～Q9)

現在B.S.を実施しているS.C.を18カ所把握できたことは前掲したが、これらはいづ頃から始められたので

あろうか。各S.C.のB.S.開設年次と第2表にすでに表わした創設年次とを併せて、それぞれの累積を第1図グラフに示した。B.S.開設1980・81年分は計画中のものを含めた数字である。

図から、S.C.が急速に増えたのはここ7～8年であり、それに伴ってB.S.も徐々に開設されてきたことが分る。

また、創設後何年経ってB.S.を始めたかをみると、第8表のごとく、創設と同時またはまもなく始めている所が多い。S.C.としての経験とB.S.実施とは関連がないと思われる。

ベビの入るプールについては、回答16中ベビ専用プールありが8、なしが8であった。ない場合の大人(3歳以上)との兼用の方法は、時間帯で区切るが5、時間帯と曜日で区切るが3であった。

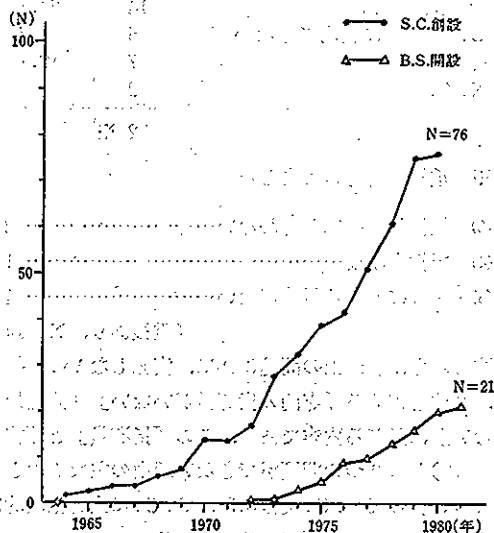
次にYES群18カ所において、実際に0歳児が何人レッスンを受けているかに焦点をあててみたい。各S.C.が何歳何月から受入れるかを第9表に示した。続いて第10表は調査時点での在籍ベビ数である。

2つの表から分るように、0歳児の受入れ可能なS.C.は12カ所(全体82に対し14.6%)そのうち実際に0歳児が在籍しているのが把握できたのは8カ所(9.8%)、ベビ数にして延べ102名であった。補足すれば、このうち84名は3カ所のS.C.に集中している。

以上のように関東8都県における普及は、この地域の総0歳児数に比すればB.S.を経験している0歳児は微々たるもので、普及率はまだまだかなり低いといえる。また、S.C.まで通う望ましい時間を30分以内とすれば、とても誰れもが参加できる範囲には、0歳児を受入れるS.C.をみつけないであろう。

ここで、何故0歳児に限って述べてきたか、ベビの年月齢についてふれておきたい。今回の調査では、3歳未満を受入れるS.C.をB.S.実施として18カ所を把握したが、B.S.に関する文献や水泳関係者によれば、2歳児は明らかに幼児水泳に分類される。歩き始めれば幼児とみなされる説もある。B.S.の1つの意義である「水に慣れやすい」というのは1歳未満の乳児について

第1図



第8表 S.C.創設後、何年でB.S.を開設したか

(N=16)

	N
0年	7
1	1
2	4
3	1
5	1
9	1
10	1
計	16

第9表 受入最低月齢

N=18

月 齢	N	計
0 歳 児	3 カ 月	3
	4 "	2
	5 "	1
	6 "	5
	不 明	1
1 歳 児	0 カ 月	2
	6 "	1
2 歳 児	0 カ 月	2
	6 "	1
計		18

第10表 在籍ベビ数

N=13

	N	男 児	女 児	計
全ベビ数	13	659	503	1,162
0 歳 児	8	64	38	102
1 歳 児	10	187	143	330
2 歳 児	12	285	222	507
月 齢 不 明	1	121	102	223

上記以外に男女別・月齢不明 61

言えることなので、正確にはB.S.実施のS.C.は第9表における0歳児受入れの12カ所ということになる。ところで、わが国における幼児水泳の歴史はどうかというと、1~2歳児水泳は、0歳児水泳とほとんど同時に外国から入ってきたものであり、今回の調査でも、その普及は、0歳児をやや上回る程度であった点はうなずけるのである。

④ B.S.に携わる指導者について(Q10~Q13)
B.S.の指導者について公的な規程はない。指導説明書は各種出ているが内容は様々で、諸外国の先駆者による著書の日本語版や、日本で行った経験に基づくもの、母親向き、コーチ向き等である。しかし、これらの著書は乳幼児の生理機能運動能力について十分に語られているものは少ない。B.S.の指導を始めようとする者が(母親にしろコーチにしろ)、これらの説明書1冊のみにより、実施するとすれば、やはり危険を感じざるを得ない。

そこで、現在B.S.指導に携っているコーチについて、どのような訓練を受けているか調べた。

まずYES群18カ所に何名のB.S.指導者がいるかであるが、回答16で延べ124人であった。(第11表)1カ所平均で7.8人である。このうちベビーのみを指導するB.S.専任コーチは6ヶ所のS.C.において、延べ14人であった。圧倒的に大人(3歳以上)とベビーの両方を指導するコーチが多い。これらのコーチが一般の水泳指導員の資格を持っているか否かは第12表に示した通り、79.0%が持っている。あとの21.0%はアシスタント・コーチ等が考えられるが、次に述べるB.S.に関する資格講習は特に、一般の水泳指導員の資格がなくても受けられる点を注意しておきたい。

第11表 B.S.コーチ数 N=16

	N	専任人数	兼任人数	延人数
ベビー専任がいる	6	14	36	50
大人と兼任のみ	10	—	74	74
計	16	14	110	124

第12表 資格者数 N=16

	人数	保有率(%)
専任中	11	78.6
兼任中	87	79.1
計	98	79.0

さて、そのB.S.に関する資格があるか、又は講習を受けたことがあるか否かであるが、第13表のごとく、延

56人と全コーチ数124人に対し45.2%となる。1S.C.に完全に指導法をマスターしたコーチが1人でもいれば、他のコーチを教育できるので、45.2%という数字は必ずしも低くはない。しかし、第13表にあげた教育講習の内容は様々で半日の講習実習のものから、3カ月の通信教育後1週間の実技があるもの、外国の先駆者から直々に教授を受けたもの等がある。従ってコーチの質・技量も様々と言えるし、おそらく指導方法もまちまちであろう。

第13表 B.S.に関する資格・講習等 N=10

	N	コーチ人数
母性小児生活指導センター	4	25
国際水泳プログラム研究所	2	9
クリスタル・スカボロー講習会、波米見学	2	6
波多野ベビー・スイミング B.S.I.	1	3
体力づくり指導協会幼児体育指導者通信講座	1	1
パウマイスター	1	1
室岡 一	1	1
林 夕美子	1	10
計	—	56

⑤ 指導形態・練習量について(Q14~Q16)
指導形態はコーチ・ベビー・母親それぞれ的人数、ベビー年齢により異なるが、母親が一緒かどうかという点から調査した。(第14表)回答16中「ベビーのみを指導する」が3、「親子ペア」が9、「以上の「両方実施」が4であった。すなわち「親子ペア」を実施している所は13である。この13ヶ所に対し、何歳まで親子ペアを続けるか尋ねたところ、第15表のごとくであった。わが国ではB.S.における親子の触れあいが1つの意味づけとして強調されているので、親子ペアで実施しているS.C.が多い事は望ましい。しかし、一方、幼児水泳となると、母子分離による自立訓練・しつけに水泳が役立つとされている。その意味で、第15表では少々ペアの期間が長いと思われる所もある。

第14表 指導を受ける N=16 第15表 ペアは何歳まで? N=13

	N	N
ベビーのみ (イ)	3	2歳0カ月まで
親子ペアで (ロ)	9	〃 6カ月〃
(イ)、(ロ)	4	3歳0カ月〃
		4歳0カ月〃
計	16	計
		13

S.C.側からみれば、親子ペアによる指導は1つのメ

リストがある。それは次の第16表に示したコーチ1人当りの受持ちベビー数に関して、親子ペアであれば1度に1人のコーチで、10組位（最高30組の所もあるが）指導できるが、ベビーのみの場合は1〜2歳児で最高5名しか指導できない点である。0歳児であれば、マン・ツーマンにならざるを得ない。その他、コーチの能力別に受持ちベビー数が異なるという回答が1あった。

第16表 コーチ1人当りの受持ちベビー数 N=13

	ベビー数	N
ベビーのみ (1歳)	1 ~ 5人	1
	2 ~ 5	1
	2 ~ 3	3
	5	1
親子ペア (0歳)	3組	1
	5	2
	6	1
	7	1
	10	5
	11	1
	30	1

第17表(1)(2)は練習量について示した。1回当りの練習時間は、各年齢とも30分が最も多いが、2歳児にはかなり幅がある。回答は月齢別に記載を求めたが、3段階に分けてあったのは2カ所のみで、他はかなりの月齢層（例：0〜30カ月等）が同じ練習時間になっていた。これは、1グループの練習に、いろいろな月齢のベビーが一緒に指導を受けていることが考えられる。1週間当りの練習頻度は2日までとする所が最も多かった。

第17表 練習量について N=15

(1) 1回当りの練習時間

	20分	30分	40分	45~50分	60分
0歳児	3	7	2	1	—
1歳児	2	6	3	2	1
2歳児	2	5	2	5	3

(2) 1週間当り何日まで可?

	1日	2日	3日
0歳児	4	7	1
1歳児	4	9	1
2歳児	6	8	1

⑥ 健康管理について (Q17~Q21)

さて各S.C.はベビーの健康管理をどのように行っているであろうか。S.C.所属の健康管理担当者を第18表

に示した。医師・看護婦以外に、保健婦がいるかどうかも設問したが、これは無であった。その他の健康管理担当者に、B.S.インストラクター（専任）1人を1カ所のS.C.があげてあった。全体に専任が少なく、0人の所がかなりの割合を占めている。

入会時の健康診断については、S.C.が直接実施している所はなかった。（第19表）表では「健診はやらない」が6になっているが、このうち、2は「母子手帳を提出させる」、1は「心疾患・病歴をきく」、1は「各自で」となっているので、計12のS.C.は入会時、何らかのチェックは行っていることになる。診断書を提出する場合、その内容についての回答（Q19）は非常に少なかった。回答は3で、内容は次の通りである。

No.1 身長・体重・胸囲、ツベルクリン反応、血圧、検尿

No.2 ツベルクリン反応と、その他必要なもの

No.3 水泳をして差支えないかどうか

以上の様に、S.C.がどの点をおさえて、入会時の健康チェックを行っているのか、1ヶ所を除いて曖昧な答えしか得られなかった。

第18表 健康管理担当者 N=14

	医 師	看 護 婦
0人	7	11
専任 1人	—	1
非常勤 1人	2	1
2人	—	1
3人	2	—
専1+非1	1	—
専1+非1	1	—
指 定 医	1	—
計	14	14

第19表 入会時の健診について N=14

	N
診断書の提出（書式あり）	4
“ ” （“ ”なし）	4
健診はやらない	6
計	14

次に入会後の定期健診であるが、これもやっていない所が回答14中11カ所あった。（第20表）但し、この中には「各自で行う」が2、「母子手帳を提出させる」が2含まれるので、何らかのチェックを行っている所は7カ所となり全体の半分である。健診内容について、回答があったのは2カ所で、次の通りである。

No.1 身長・体重・胸囲・内診・皮膚・目・耳・指定医

の指示で必要な者のみ心電図・脳波

No.2 身長・体重・胸囲・ツベルクリン反応・血圧・検尿

以上 S.C. の健康管理状況は、健診を実施しているか否かは明らかになったが、健診内容については充分な回答が得られなかった。全体としては、会員個々に健康管理の責任をもたせる傾向がみられた。これは他のスポーツクラブなどでもみられることであるが問題としたい。

第20表 入会後の定期健診について N=14

			N
や	ら	な	10
い			
月	1	回	1
年	1	回	1
年	4	回	1
年	2	回	1
		各	1
		自	
計			14

第21表 温水の温度 N=16 第22表 水素イオン濃度 P

	N
28 度 C ± 0.5	1
28 ~ 31	1
29 ~ 30	1
29 ~ 31	1
29 ~ 32	1
30 ~ 30.5	1
30 ~ 31	1
30 ~ 33	1
31 ~ 32	3
31 ~ 33	1
32 ~ 33	2
32 ~ 34	1
その他(都の規準)	1
計	16

H 値		N
▲5.8	~ 8.6	8
5.8	~ 7.5	1
6.8	~ 7.2	2
7.0	~ 7.2	1
7.2	~ 7.6	1
その他*		3
計		16

第23表 濁り度 N=15 第24表 過マンガン酸カリ

PPm	N
▲5 以下	6
4	1
3	2
1	1
その他*	4
計	15

消費量		N
20 以下		2
▲12		8
10		1
6		1
2.7		1
その他*		2
計		15

第25表 遊離残留塩素 N=15

PPm	N
0.3 以上	1
▲0.4	8
0.5	3
0.7	1
その他*	2
計	15

第26表 総残留塩素 N=13

PPm	N
0.4 以上	1 (8)
0.7	1
▲1.0	9
その他*	2
計	13

第27表 大腸菌群 (10C C中) N=14

	N
▲サンプル 5 本中 (+) 2 本以下	5
" " 1 本 "	1
10cc 中 200 個 以下	1
" 1 個 "	1
" 0 個 "	2
その他*	4
計	14

ない。これを除外すれば、あとは大体 0 ~ 2 歳児が入るのに適当な範囲といえよう。

第22表~第27表までは、水質基準を示した。比較のため東京都の基準値に▲印をつけた。各項目ともこれと同じところが最も多く、その他は、都よりやや厳しい基準を設けている所が大半を占めている。尚、第22表~第27表における「その他」の内容は、一般遊泳プールと同じ、都の基準、保健所にて検査、という記載であった。

上記以外に基準があるか否かの問に対しては、1分所だけ回答があり、室温32℃前後とのことであった。

① 水質基準について (Q22~Q28)

温水の温度基準は第21表のごとく、わずかずつであるが各 S.C. まちまちであった。これは受入れベビーの年月齢が異なるのでやむをえないかもしれない。最低の温度基準 28℃±0.5 を示した S.C. は 0 歳児は受入れてい

② B.S. の目的について、(自由記載)

目的について記載があったのは 8 カ所で、内容は次の通りである。

- 1 水に慣れる・水の理解…………… 6
- 2 育児の一環・よい母子関係のため…………… 4

- 3 健康増進.....3
- 4 適度な発育・発達.....2
- 5 大きな発育・発達.....2
- 6 知能の発達.....2
- 7 運動能力の発展.....1
- 8 自己の生命を守る.....1
- 9 団体の中で育つ効果.....1
- 10 人類の進行.....1

以上のように大部分のS.C.は「水慣れ」「母子関係」を第1, 第2の目的と考え、それに付随するものとして、様々な効果を期待している。但し、これらの効果が実際に上がっているかどうかは、科学的資料が乏しく、疑問が残る。問題は母親達が、この第1, 第2の目的を忘れ、後の方の效果に過大な期待をかけはしないかという点である。この点について、今回は、母親に対する意識調査を実施する予定である。

V ま と め

- (1) B.S.は世間で騒がれている程、関東8都県においても普及していない。都内においても、誰れもが30分以内に通える範囲にB.S.をやっているS.C.をみつけることができるとは思えない。すなわち、まだ一般化されていない。
- (2) しかし、S.C.のB.S.に関する関心は高く、将来実施したい、できればやりたい等の積極的な所の方が、全然やるつもりがない所より多い。これからも徐々にB.S.実施S.C.は増えていくことが予想される。

が、全然やるつもりがない所より多い。これからも徐々にB.S.実施S.C.は増えていくことが予想される。

(3) 指導方法は各S.C.まちまちであり、もう少し立ち入った調査が必要である。

(4) 目的についての記述で科学的根拠のないと思われるものがみられた。「水慣れ」「育児の一環」以外にB.S.による効果を過大に期待するのは問題である。

【参考文献】

- 1) 林夕美子・林裕三：0歳からの水泳指導，講談社，1974。
- 2) 斎藤典子：ベビースイミング，鷹書房，1976。
- 3) ポニー・ブルデン：赤ちゃん和泳ごう，文化放送開発センター出版部，1976。
- 4) ダイナー・ウェン・ダイク：赤ちゃん水泳，ベビースポール・マガジン社，1976。
- 5) 今村榮一，他：水と育児I，ベビースイミング，母性小児生活指導センター。
- 6) Eva Bory: Teaching Children to swim, Paul Hamly Pty Ltd, 1971.
- 7) 室岡一，他：周産期 risk factorのみわけ方と胎児医学・母児教育法の実際（第210回最新医療セミナーテキスト），産業技術交流センター1980。
- 8) Mashall H. Klaus, John H. Kennell, 竹内徹・柏木哲夫訳：母と子のぎずな，医学書院，1979。

◇ ベビースイミングの実施状況に関するアンケート ◇

貴スイミングクラブとベビースイミングについておたずね致します。()内、表の空欄にはご記入を、番号(1.2.3.....), 記号(イ, ロ, ハ,.....)には○印をおつけください。

貴スイミングクラブ名称 ()

所在地 ()

アンケート記入者氏名 ()

役職 ()

ご記入年月日 ()年 ()月 ()日

I 貴スイミングクラブの概要について

Q1 創設はいつですか.....昭和()年

Q2 貴スイミングクラブ専用プールをおもちですか。

○(おこでいう専用とはベビー専用の意味ではありません)

(専用あり)→いくつですか.....()面

○(専用なし)→借用状況は、イ、曜日決めて借用

ロ、時間帯決めて借用

ハ、その他()

Q3...在籍会員は全部で何人ですか.....()人

曾根他：ベビー・スイミングについて

Q4 水泳指導員は何人いらっしゃいますか。……………
 専任……………()人、 非常勤……………()人

II ベビー・スイミングについて

注) 以下でいうベビー・スイミングとはすべて3歳未満(2歳11ヶ月以下)の児を対象としたスイミングを指します。

Q5 貴スイミングクラブではベビー・スイミングを行っていらっしゃいますか。

1. はい 人 → Q6へお進みください。
2. 具体的に計画中である→開設はいつですか。…()年()月
3. いいえ→開設しない、あるいは出来ない理由で、最も重大なことは次のどれですか。
 イ、希望者が少ない、あるいはいない
 ロ、専門の指導員がいない
 ハ、設備、用具がない
 ニ、健康管理上の問題
 ホ、その他管理上の問題→具体的にお書きください。

()
 へ、ベビー・スイミング理論に賛同できない→理由は何ですか。

()

ト、その他→具体的にお書きください。

()

これまでのご回答ありがとうございました。
 これ以降はQ5で「はい」とお答えの方のみご記入願います。

III ベビー・スイミング実施状況について—その概要

Q6 ベビー・スイミングの開設はいつでしたか。…昭和()年()月

Q7 ベビー・スイミング専用のプールはありますか。

1. あり → 大きさは ()m × ()m、水深()m
2. なし → 使用法は次のどれですか
 イ、時間帯で区切る
 ロ、曜日で区切る
 ハ、その他()

Q8 受け入れる最低月齢は……………()歳()ヶ月児より

Q9 現在の在籍ベビー数は何人ですか。年齢別、男女別に記してください。

	男 児	女 児	計
在籍全ベビー数	人	人	人
1歳未満の児	人	人	人
1歳～1歳11ヶ月児	人	人	人
2歳～2歳11ヶ月児	人	人	人

IV ベビー・スイミングの指導員について

Q10 ベビー・スイミングにたずさわる指導員は何人いらっしゃいますか。(アシスタントコーチも含みます)

- ベビースイミングのみ専任の指導員..... ()人
- ベビーと大人(3歳以上)を兼任の指導員..... ()人

Q11 Q10のうち、水泳指導員の資格(一般、ベビースイミングそれぞれを含む)をおもちの方は何人ですか。

- ベビー専任のうち..... ()人
- ベビーと大人兼任のうち..... ()人

Q12 Q11でお答え戴いたうち、一般の水泳指導員の資格はどこが認定しましたか。認定機関別に人数を記してください。

1. 日本水泳連盟指導員..... ()人
2. スイミングクラブ協会認定コーチ..... ()人
3. 文部省日本体育協会スポーツ指導員..... ()人
4. (財)体育施設協会(国立競技場)水泳管理士..... ()人
5. 波多野スイミングコーチ学校..... ()人
6. 日赤救助ライセンス..... ()人
7. その他 ()..... ()人
- " ()..... ()人
- " ()..... ()人

Q13 Q12以外のベビースイミングに関する特別の資格をお持ちの方、あるいは講習、教育をお受けの方がいらっしゃいましたら、機関名あるいは講師名と人数を記してください。

機関名又は講師名

- ()..... ()人
- ()..... ()人
- ()..... ()人
- ()..... ()人

V ベビースイミング指導形態について

Q14 指導を受けるのは原則として、次のどちらですか。

1. ベビーのみで
2. 親子ペアで→何歳までか、めやすがありますか
 イ、あり..... ()歳 ()ヶ月
 ロ、なし

Q15 月齢別の練習量はどの位ですか。

1回当りの練習時間(水に入っている時間)と、もし1日2回以上練習が受けられる場合は1日の延べ時間、そして、1週間当りの練習頻度を、月齢別にいづれも、最長、最多限度をご記入ください。

児月齢区分	1回当り	1日当り	日/週
()ヶ月~()ヶ月	分	分	日
() ()	分	分	日
() ()	分	分	日
() ()	分	分	日

Q16 1回の練習で、コーチ1人当りで受け持つベビー数は何人ですか。月齢別にご記入ください。親子ペアに指導している場合はペア数を記してください。

児月齢区分	ベビー数	親子ペアの場合
()ヶ月~()ヶ月	人	組
() ()	人	組
() ()	人	組
() ()	人	組

